

# 「“新的抒情” —— 何其芳『夜歌』中的 “心境” 与 “工作”」

## 【講演者】

姜涛

北京大学・中国語言文学系・准教授

【司会】 鈴木将久（東京大学）

## 【日時】

2021年1月20日（水）  
15:00~17:30

## 【開催方法】

Zoom ウェビナー（事前登録制）



出席を希望される方は、QRコードか下記のリンクから事前にご登録ください。登録した方にZoomリンクをお送りします。

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_O-LIEWY-QX6DzNMIvdRPFA](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_O-LIEWY-QX6DzNMIvdRPFA)

※関連テキストが必要な方は、下記までご連絡ください。

鈴木将久：[msuzuki@l.u-tokyo.ac.jp](mailto:msuzuki@l.u-tokyo.ac.jp)

【言語】 中国語

現在、文学研究はどのような問題を論じ、いかなる方法を切り開いているのだろうか。2021年のはじまりにあたり、中国文学研究において新たな探究をしている三人の方を招いて講演していただき、文学研究の現在地と今後のあり方を展望したい。

第二回では中国の詩人何其芳を取りあげる。何其芳が1940年から41年に書いた連作詩『夜歌』は、彼の延安時期の思想の軌跡を記録するテキストとして、明朗に見えるが、じつは豊かな複層性をはらんでいる作品である。そこにあふれる「楽しさ」、くり返される「同志愛」は、集団的な環境、および「魯迅芸術書院」の雰囲気と関わりがある。

『夜歌』の「新しい抒情」を読み直すことで、「何其芳現象」と呼ばれる共産主義への思想の変化を再認識できるばかりでなく、さらに1940年代から50年代の戦争と革命の歴史における知識人の内在的な「心境」について思考することが可能になるだろう。

【主催】

・東京大学東アジア藝文書院（EAA）